

インターバンクの声（2017年7月31日）

週末のニューヨーク市場の円相場は、終盤に7/24につけた110円62銭を割り込んでしまった。

ニューヨーク市場の朝方に発表された4-6月期の米GDP速報値が前期比で2.6%増と大幅な伸びを見せたものの、1-3月期の数字が下方修正されたことと、PCE（個人消費支出）物価指数が前期の2.2%上昇から0.3%上昇へと大幅に鈍化したことが主要因だ。

それでも一旦は7/24につけた安値の手前でドルが反発する場面もあったが、米長期金利が小幅ながら低下し、北朝鮮が弾道ミサイルを発射したとの報道がリスク回避の円買いにつながってしまったようだ。

先週のドル下落時には、110円台前半ではドル買い需要が強いとの声が上がっていたが、今週もそうしたドル買い需要が残っているのか気になるところだ。この水準を持ちこたえることが出来ないと、次の下値の目途が6月中旬につけた109円台中盤や4月に付けた今年の最安値108円台前半になってしまい、ドル売り・円買いが加速してしまう可能性もある。

ADP雇用統計や週末の雇用統計を確認してからでも遅くない気もするが、円買いのバイアスが強いのも確かで、急な円高には注意が必要だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。